

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立皇子山中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語Aについて、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」は、全国平均程度ですが、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均に比べ、やや弱い傾向にあります。

国語Bについて、「話すこと・聞くこと」は、国語A同様、全国平均程度ですが、それ以外の領域では、全国平均に比べやや弱い傾向にあります。

数学Aについて、「数と式」、「関数」は、全国平均より高い数値ですが、「資料の活用」は、全国平均を下回ります。

数学Bについて、すべての領域で全国平均を上回っています。A、B両問題で、全国と比べ無答率が低くなっています。

理科については、どの領域も全国平均程度であり「知識」の問題では正答率が高いです。ただ、「活用」の問題では少し弱さがみられます。

生徒質問紙については、学校の宿題や復習がしっかりできていない点が課題としてみられます。

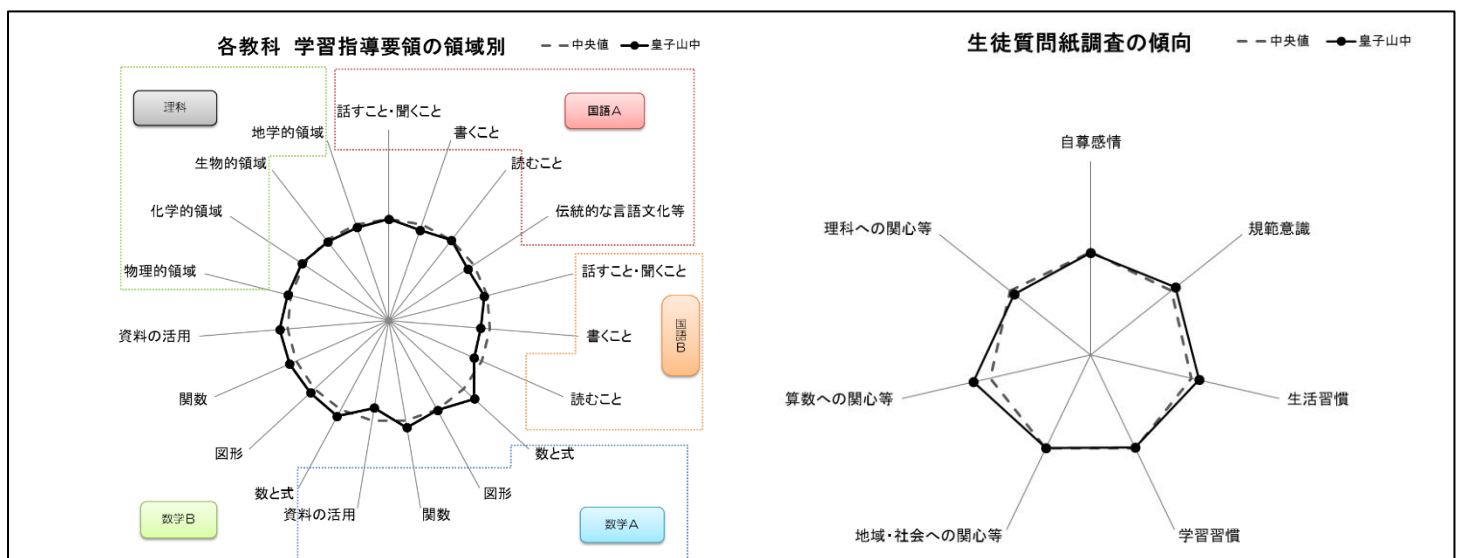
《強み・弱み》

本校では6年間「学び合い学習＝協同的な学び」を推進してきました。その中で少しずつ、学習規律・規範意識も向上し、大多数の生徒が、前向きに授業に臨むようになりました。特に、数学では、「数と式」の領域で成果が現れました。これは、「学び合い学習」で、生徒がより主体的に学ぶようになった成果であることはもちろん、家庭学習用に毎時間配布する計算中心のプリント学習や、定期的に放課後行う補充学習の取組が成果となって現れていると思われます。「資料の整理」の領域では、ことばの意味をしっかりと理解していない傾向がみられました。「国語」では、「書くこと」に弱みがみられました。授業全体の時間配分を考え、「書くこと」の時間確保を図る必要があります。

生徒質問紙については、「学習習慣」に弱みがみられます。今後、生徒が主体的に学ぶ補充学習のあり方など、家庭学習を含め、取り組み方法を明確に指導し、さらなる学力向上に向けた学習習慣の定着を目指していきます。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

本校では、昨年度から『伝え合う力（聴く力・考える力・表す力）の育成』に力を入れています。いろいろな場面で「聴く」ことには改善がみられます。しかし、聴いて考える・書くことについては、調査結果からも本校生徒の課題がみとれます。

その中で下半期は「書くこと」についての指導を重点に改善を図ります。まずは、聴いて→考えて→書いて、そして、伝える、つまり「考える力」「表す力」を育てる指導充実のため、教員相互の授業研究で指導力向上を図ります。一方、学校運営協議会を中心に地域においても生徒への働きかけを強化していただきます。加えて家庭学習については、具体的な指導で自発的な学習習慣の定着を目指します。